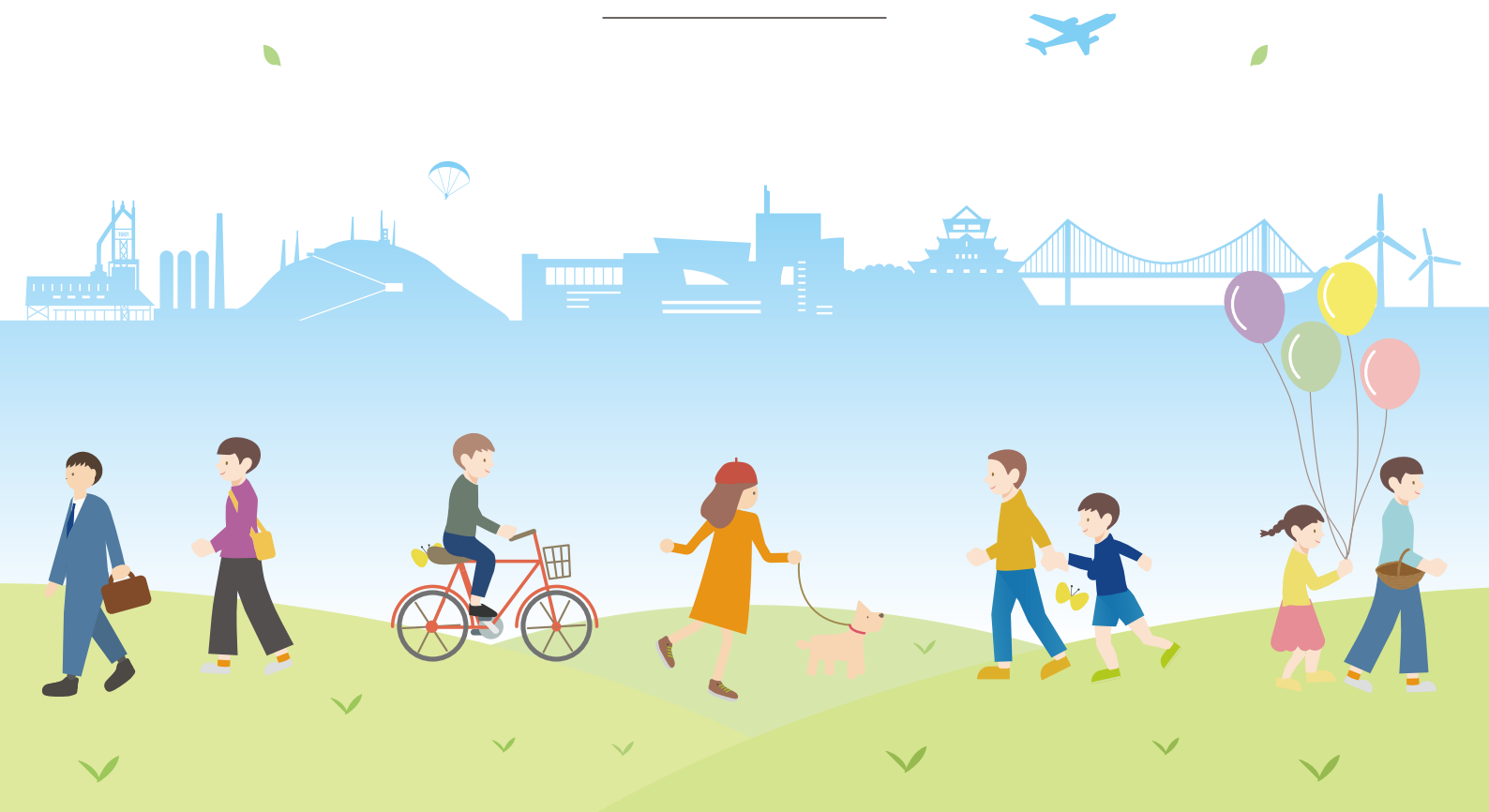




Kitakyushu
SDGs

2023 北九州SDGs未来都市アワード

報告書



主催
北九州市

2023

北九州SDGs未来都市アワード



主催

北九州市

応募資格

北九州市内を中心にSDGsの普及に貢献し、SDGsの達成に寄与する活動を展開している学校・団体・企業の活動

表彰部門

● 市民部門 ● 企業部門

賞の種類

SDGs大賞 SDGs達成にあたり、
他者のモデルとなる極めて優れた活動と認められるもの
SDGs賞 SDGs達成にあたり、
他者のモデルとなる優れた活動と認められるもの

選考基準



項目

内容

SDGsとの関連性

持続可能な社会の実現に向け、環境、経済、社会の視点を組み入れ、取り組む課題や目的を明確にしているか。

協働

多様なステークホルダー（人や団体）と、どのように協働しているか。

意識や行動の変化

課題解決のための学び合いや実践を通じて、個人の価値観・態度・行動の変容、地域力の向上及び社会の変容に影響を及ぼしているか。
また、今後、他の活動に波及することが期待されるか。

選考委員の独自の選考基準

有識者からなる選考委員が、それぞれの専門分野の観点から選考項目を設定し、選考を行う。

受賞数

5件（SDGs大賞:2件, SDGs賞:3件）

表彰の背景・目的

①北九州の持続可能な社会づくりの「原点」は公害克服

ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育) は、持続可能な未来や社会づくりのために行動できる人を育む教育です。

1960年代、北九州市では、深刻な公害を、婦人会の取り組みをきっかけに、市民・企業・行政等が協働して克服した歴史があります。この歴史を「ESDの原点」と位置づけ、2006年9月に設立した北九州ESD協議会を中心に、これまで様々な立場の人が、持続可能な社会づくりのための活動を推進してきました。



婦人会による公害克服運動



大学・企業・自治体も協力し、公害を克服（省エネ型生産工程や公害防止機器整備）

②世界共通の目標 SDGsとESD

そのような中、2015年に「誰一人取り残さない」という理念のもと、国連加盟国193か国の全会一致で、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) が採択されました。近年、SDGsという世界共通の目標の達成と、その人材育成を担うESDはますます重要になっています。



公害克服の経験と技術を世界・次世代へ（インドネシア・スラバヤ市でのコンポストによる生ごみ堆肥化事業）

③持続可能な社会に向けた活動を表彰

こうした世界的な動きをうけ、北九州市は、SDGsの普及と、活動者の意欲の向上を図り、本市でのこれらの活動をより発展させることを目的に、「北九州SDGs未来都市アワード」を実施しました。



「今」もひろがり続けるSDGsの輪（北九州SDGsステーションでのイベント）





受賞者の活動紹介



市民部門

 SDGs大賞	響灘ホップの会	3
 SDGs賞	高須子ども食堂カリス	4
	NPO法人SoELa	5

企業部門

 SDGs大賞	新ケミカル商事株式会社	6
 SDGs賞	ましじめ株式会社	7
	その他今回応募いただいた皆様	8

選考委員 (敬称略・五十音順)

〈委員長〉 ■ 大田 純子 (公益財団法人 地球環境戦略研究機関 北九州アーバンセンター 研究員)

〈委員〉 ■ 大山 貴稔 (九州工業大学教養教育院人文社会系 准教授)

■ 實松 秀男 (北九州商工会議所 産業振興部長)

■ 遠矢 弘毅 (株式会社 北九州家守舎 代表取締役(一社)ソシオファンド 北九州理事)



受賞者の活動紹介

響灘ホップの会

市民部門

活動名

ホップを通じた 地域SDGs事業



活動目的

ホップを育てる過程からビール醸造・頒布、その他ホップを使った特産品の計画からユーザーの手元に渡るまでのさまざまな段階を通して、ホップ生産者・醸造会社・販売店・関連企業・市民・行政などが一緒になったネットワークを構築しています。新しい文化を醸造・醸成しながら、北九州らしい第6次産業をけん引し、市民の環境意識の向上、北九州へのシビックプライドの醸成や間接的な自然環境保全など、SDGsの取り組みの推進を目的としています。

活動概要

◎ホップの栽培

ビールなどの原料であるホップを農園だけでなく、幼稚園、小学校、大学、市民センター、浄化センターなど毎年北九州市内の10箇所ほどで、市民参加による栽培を行っています。

◎クラフトビールの市内醸造・販売

門司港レトロビールで醸造し、北九州若松産ホップ使用のビールとして数量限定販売をするほか、その他団体とのコラボビールも製造・販売。クラフトビールの市内醸造・販売は年間8,000本～16,000本です。

◎地域内資源循環の実績

地域活性化や地域資源循環を目指した活動は多岐に渡っています。

- ・発生するビール粕全量を市内の養鶏場で飼料として供給し、産廃費用抑制、資源活用に貢献しています。
- ・パン工場では醸造後の絞り粕(麦芽粕)を小麦粉の代替にコッペパンを作成し、市内SDGs推進校12校に給食で提供しました。
- ・ビールに使えないはみ出しホップのアップサイクルで、100%天然由来成分のシャンパーを製造・販売しています。



日明浄化センターでの栽培



親子ホップ収穫体験



完成したビール

成果と今後の展望

市民はホップの栽培を苗付けから収穫まで体験したり、ホップを使った地ビールやコッペパンの飲食やヘア化粧品の使用により、市民の環境意識は向上し、その製造過程の廃棄物が新たな価値を生み出す商品となることを学び、食育、環境教育にもなっています。

それまでホップは漠然とした存在だったものが、自ら植えて育てることで、風物詩として根付き、地域の人々に知名度を得ています。おのずと、北九州市への愛着へとつながっています。市内企業からの連携も広がり、今後に向けての新たな商品開発や取り組みも進められています。

主な協働機関	農園、市民センター、上下水道局、大学、幼稚園、商業施設、酒販店、企業、パン工場、美容薬製造業	
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産過程や資源循環において、地域資源を活かしつつ多様なステークホルダーと協働した活動であり、地域活性化にも繋がっている。 ● 環境・社会・経済全ての側面が揃っており、仕組みが既にできているため、人が変わっても継続していくと考えられる。 ● 若松を盛り上げていくという面からも、ぜひ活動の拠点を作り、ビールを楽しんでもらえる場の提供を実現していただきたい。 	
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGsの視点を踏まえたシビックプライドの醸成 ● ESD活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界をリードするエコタウンの形成 ● ごみの減量と廃棄物発電



受賞者の活動紹介

高須子ども食堂カリス

市民部門

活動名

市場に出せない野菜を中心に、子ども食堂やフードパントリーを実施



活動目的

地元の規格外野菜を加工して販売したことをきっかけに、子育て中の親や地域の子もたちとの輪が広がり、私たちの活動は始まりました。規格外の野菜を無駄にせず活用し、食品ロスを減らし、困っている人たちに食事を提供するなど本質的な支援をすること。同時に、子ども会がなく子育て世帯の交流が乏しい地域課題の解決に向けて、地域住民の協力のもと、イベントに参加した子どもたちと地域の大人が気軽にコミュニケーションできる場所の確立を目指しています。

活動概要

◎フードパントリー

通常の子ども食堂で毎回実施している他、高須市民センター等にて臨時フードパントリーを実施しています。地元の農産物やお米、地元企業からいただいた寄贈の品などを、子ども食堂での提供、配布だけでなく、子育て支援の一環で必要な人が必要な分だけいただくというスタイルで行っています。地域で働く人を身近に感じいただき応援し合うなど、コミュニケーションも重視しています。

◎子ども食堂

出前フードパントリーを複数回実施したり、関係者の学習会やお試し子ども食堂活動などを丁寧に行いながら準備をし、毎月の定例実施につなげています。月に1~2回、地域の野菜や、子ども食堂ネットワーク北九州を通じて提供される食材などを利用して、日本バプテスト高須キリスト教会にて子ども食堂が開催されます。



子ども食堂チラシ



子ども食堂参加者の食事風景



ボランティアスタッフの集合写真

成果と今後の展望

高須子ども食堂カリスは0歳児から80歳代まで幅広い層の住民が、各回50名ほど集う憩いの場となっています。運営は子育て世代のお母さんたちだけでなく、高齢者、学生や若者もボランティアで参加するようになりました。

子ども食堂活動にはさまざまな理由やルートで食品がもたらされています。活動に関わることは、それらがどのような理由で、誰の手によって届けられているかを学べる良い機会にもなっています。旬の大切さや食の安全、野菜作りの苦勞など、さまざまな学びを共有できるのです。

また、子ども食堂ネットワーク北九州からもたらされる有形無形の支援によっても、私たちの活動は支えられています。今後は地域にあるほかの子ども食堂などと協力関係を結び、食品や生産物を無駄にしない取り組みを、より広く進めていければと考えております。

主な協働機関	地域の教会、教育機関、市民センター、民生委員、子ども食堂ネットワーク北九州、NPO法人、地域の子ども食堂
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ●フードロス削減・子どもの貧困・食への学び(食材や流通システム)など、複数の問題が絡み合った状況を見定めたくて、地域に根差した取り組みがなされている。 ●子ども食堂が地域のコミュニティの場となり、地域が一体となっている。 ●さらに企業も巻き込んだ活動となることを期待したい。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもに関する経済的・社会的な課題への対応 ●子ども食堂の運営支援 ●小さな地域コミュニティの再構築



受賞者の活動紹介

NPO法人 SoELa

市民部門

活動名

地球環境カードゲーム
マイアースによる
子ども向け環境教育事業



活動目的

地球環境カードゲームマイアースは、2008年に慶應大学の学生が環境教材として制作しました。「強固な生態系を構築して地球を守るチーム」と「温暖化で地球を滅ぼすチーム」が地球の未来をかけて戦う、地球環境のコンテンツを搭載した対戦型トレーディングカードゲームです。2020年より日本各地の生態系をマイアースカード化する事業を行い、地球環境を自分ごととして捉え自ら行動する若者を輩出し、主体的に行動する人々で溢れる社会を目指します。

活動概要

◎多くの団体との協働で制作

地域の子ども向けに、北九州の生態系を元にした「マイアース北九州響灘パッケージ」を、北九州市立大学、西日本工業大学、響灘ビオトープ、山田緑地、マリンワールド海の中道、大英産業、ブリヂストン、シャボン玉石けん、われら海岸探偵団、北九州SDGsステーションとの協働で制作。2023年9月に完成しました。

◎ファシリテータには高校生や大学生も

対戦型トレーディングカードゲーム「マイアース」を活用した体験会やワークショップで、地域の子ども向け環境教育事業を行います。ゲームのバランスを崩すのが、環境や生き物に良くも悪くも影響する人間の活動カードであることなど、楽しみながら地球環境のさまざまなつながりを学べる内容です。その際には、地域の高校生や大学生にも広く呼びかけ、ファシリテータとして運営や進行補助のボランティアを行ってまいります。



ワークショップ・環境授業



体験会



マイアース大会

成果と今後の展望

体験会に参加した子どもたちは、保護者にテレビのつけっ放しを注意したり、自らも教室の電気をこまめに消すなど、暮らしを改善しようとする意識の向上が見られます。小学生の中には、中学生になるのを機にファシリテータになる子がいたり、人材の循環も始まっています。徐々に高校生ファシリテータも増え、支援者は拡大。さらにファシリテータとして参加した高校生が、地球環境問題への意識を高め環境系の大学に進学するなど、影響は多大です。

一方、ゲーム制作を担当した大学生も、積極的に体験会に参加してくれるなど、意識が変容しています。企業PRカードの制作を通じ、企業も積極的に子ども向けのイベントに場を提供してくれるようになりました。

この事業では、あらゆる発想からのオリジナルカードが制作できるため、多業種に参加していただいております。ファシリテータの大学生や高校生が参加することで、学校もボランティア支援してくれるため、産学官による子どもの教育体制の構築が期待できます。

主な協働機関	大学、自然環境学習拠点、緑地公園、海浜公園、企業、環境保全任意団体、行政機関
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ●北九州の生態系に即したカードゲームを作成し、地域の教育現場で活用するというアイデアは魅力的である。 ●多様なステークホルダーと連携・協働に基づく実施体制が整っており、他の地域への横展開が期待できることや、実践を通じて行動の変容および社会の変容に影響を与えている。 ●北九州市内の企業と協働されているが、さらなる具体的なアクションを行ってほしい。 ●ゲームを行った後に、実際のアクションを企画し、より実践的な展開につながることを期待したい。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ●SDGsの視点を踏まえたシビックプライドの醸成 ●ESD活動の推進



受賞者の活動紹介

新ケミカル商事 株式会社

企業部門

活動名

能楽で地域活性化



活動目的

能楽はユネスコ無形文化遺産として国際的にも認められた文化財です。北九州はその能楽とゆかりがあることを知り、文化によるシビックプライドの醸成を試みています。若い世代の人口減少に歯止めをかける一つの方策として、能楽を通じて「地元への誇り」を呼び起こし、地域活性化を目指します。2018年に本社を東京から北九州に移設し、地元採用を積極的に注力する中、地元の魅力を持てる人材育成も重要課題です。

活動概要

「能楽のある町」という誇りを定着させるため、地元演目「和布刈」を教育の現場や一般市民にも広める活動を行っています。

◎門司エリアの小・中学校で能楽出前授業を実施

出前授業では能楽師が「和布刈」を演じるところから始め、その後、演目の内容や能楽器についてわかりやすく解説した後、子どもたちも体験。最後に、もう一度、実演を鑑賞することで、子どもたちの記憶に残る体験となっています。その後、興味のある児童生徒を募り、能楽体験教室と発表会も開催しています。2022年度は門司三宜楼、ウエルとばた、2023年度は門司市民会館で開催しました。

◎一般市民を対象に公演を開催

「能楽公演 和布刈」(1回/年)を2021年度は門司市民会館(700人来場)、2022年度はウエルとばた(400人来場)で開催しました。その他、小倉城新能への特別協賛や小倉城竹あかりでも能楽を上演しました。

成果と今後の展望

教育機関との協力により伝統芸能の価値が再評価され、出前授業の対象校は、2021年度4校、2022年度4校、2023年度7校と徐々に増え、門司エリア以外の小倉や八幡の小学校からも依頼がくるようになりました。子どもたちからは「地元こんな素晴らしい伝統芸能があったことを知ることができてうれしい」との感想も多く、能楽を通じて、文化理解、協力、集中力を学び合い、持続可能な社会への参加者としての成長が見られます。

能楽公演を鑑賞した保護者や地域の方々からは、能を見る機会を得られた感謝の声や、能楽師の世界からも「北九州では能楽が盛り上がり生徒も増えている」という、異例の事態を喜ぶ声まで聞こえてきます。この活動はマスコミに取り上げられることも多く、シビックプライドの醸成や、能楽だけでなく地域の文化や芸術に興味を持つ波及効果となることも期待しています。



能楽出前授業



子ども能楽体験教室発表会



能楽公演「和布刈」

主な協働機関	地域、教育機関、行政機関、商工会議所、プロ能楽師団体
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 関連する主体を巻き込みながら、活動を広げる足場を地道に築いている。 ● 企業が本業とは異なる地元独自の伝統芸能の分野に着目、支援することで、地域の活性化や将来人口の増加といった、課題解決に貢献している点が素晴らしい。 ● 持続するための工夫や会社と能楽の関係性を更に具現化していただきたい。 ● 他の伝統文化とのコラボレーションや北九州らしい新しい変化を創ることが、北九州に人を呼び込むことや市の独自価値に繋がれると考える。取り組みの深化を期待したい。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内企業への就職促進、新たな働き手の確保 ● 文化・芸術を通じた相互理解による新たな未来の創造 ● SDGsの視点を踏まえたシビックプライドの醸成



受賞者の活動紹介

ましじめ 株式会社

企業部門

活動名

サステナビリティと地域への 愛着・想いをお菓子で表現する 「あしかクッキー」事業



活動目的

弊社はウェブサイトの制作およびその活用の支援構築を行いながら、菓子事業部としてはあしかクッキー事業を展開しています。食の安全にこだわり、サステナブルを重視した製品づくりをベースに、北九州市ならではの商品開発に力を入れています。北九州市外の方にはお土産として北九州という場所の訴求を、地域住民には地域への誇りや愛着を持てるような商品開発で、シビックプライドの醸成を目指しています。

活動概要

◎地元愛が深まるアイデアを形に

北九州の市政60周年に向けて、購入者・製造者の双方が地域愛を持つきっかけとなる商品を目指し、試作を重ねて完成させたのが北九州市の7区の形をかたどった「区クッキー」です。子どもたちへの食の安全にも配慮した、合成着色料・保存料を使用せず野菜や果物のパウダーで色分けした7色のクッキーは、パズルのように組み合わせると北九州の形になります。お土産としてはもちろん、地域への愛着を生む効果も期待できます。販売は、地域の魅力を発信するイベントやコンセプトを持った販売展開の中で行うことで、北九州市の認知度向上や地元を知る契機につなげています。

◎リユース可能な商品開発

「小倉城クッキー」には、容器包装にリユースを促すオーガニックコットン製の巾着袋を採用したり、商品タグもしおりとして再利用したくなるような、サステナブルな社会の実現に向けた製品づくりに力を入れています。



北九州市の『区クッキー』



小倉城クッキー及び包装材

成果と今後の展望

「区クッキー」は多くの消費者・販売店に拡がり、各種媒体で掲載・配信されたことで、北九州市内外の方に市の魅力を考えていただく機会が創出されました。さらに、2023年10月に戸畑区の旧安川邸で行われた第36期竜王戦七番勝負の第3局で2日目、午前のおやつとして「区クッキー」を選択。このことは各メディアに大きく取り上げられ、北九州市各区の個性にも注目が集まり、地元の価値の再発見にもつながったようです。

食の安全やサステナビリティを重視する製品づくりも評価していただけたのか、いくつかの企業からは周年記念やイベントに向けたオリジナルクッキーの注文もいただくようになりました。今後も、SDGs未来都市、サステナブルを重視する北九州市のメッセージ性と絡めていく活動に力を入れるとともに、これらの取り組みを応援していただける方とのパートナーシップも強化しながら、北九州の街の魅力を発信していきたいと考えています。



第36期竜王戦七番勝負第3局
北九州対局の勝負スイーツに選ばれる

主な協働機関	行政機関、地元商業施設、企業
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 本業から、サステナビリティやシビックプライドの醸成を図る取り組みにつなげている。 ● クッキー販売を越えた、持続可能な発展(経済・環境・社会システム)とのつながりに期待したい。 ● デザイン力やアイデアは素晴らしいので、たとえば市内の農家を協働パートナーに加えて、色分け用の野菜や果実を地元産にするなど、より地域性が深まる活動に期待したい。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ● 「北九州SDGs未来都市アワード」等によるモデル事例の発信 ● SDGsの視点を踏まえたシビックプライドの醸成 ● 誰もが働きやすいまちづくり ● 地域環境活動の更なる促進



その他今回応募いただいた皆様



市民部門

団体名	北九州市立 則松中学校生徒会
活動名	則松中学校生徒会 「第5回きずなプロジェクト」

団体名	北九州市立 市丸小学校
活動名	豊かな自然を守ろう 市丸小SDGsの取組

団体名	北九州市立大学 SDG5 プロジェクト
活動名	ジェンダー平等の輪を未来につなぐ 「ジェンダー平等の未来予想図」プロジェクト

団体名	北九州市立 吉田中学校
活動名	ボランティア活動を中心とした 学校の活性化

団体名	特定非営利法人 猪倉里山を守る会
活動名	里山地域の環境改善事業

団体名	認定こども園 ひびきの保育園
活動名	コッポちゃんとコンタくんの なまごみきえるばこ

団体名	一般社団法人 キャリアサポートクラブ
活動名	「あおぞらをつかむ～ 誰にでも居場所がある社会をめざして～」

団体名	防災Lab.北九州
活動名	多彩なメンバーによる 防災活動のプラットフォーム ～市民への啓発活動と自分たちの学び合い～

団体名	一般社団法人 ストリートピアノドネーションズ
活動名	障害のある人の芸術分野への 職種を広げる「ピカピアノ」



北九州市のSDGsの取り組み



北九州SDGsクラブ

団体紹介

さまざまな課題解決を目指してSDGsを達成するには、産・官・学・民が連携し、市民一丸となって取り組む必要があります。北九州SDGsクラブは、さまざまなステークホルダーが自由に参加できる場を提供し、会員の交流や情報交換を通じて、それぞれの活動が活性化することを目指しています。

●ホームページは
こちらから



URL: <https://www.kitaq-sdgs.com/>

活動内容

●交流会

会員の活動発表やワークショップ、情報交換会などを定期的に行います。



●プロジェクトチーム

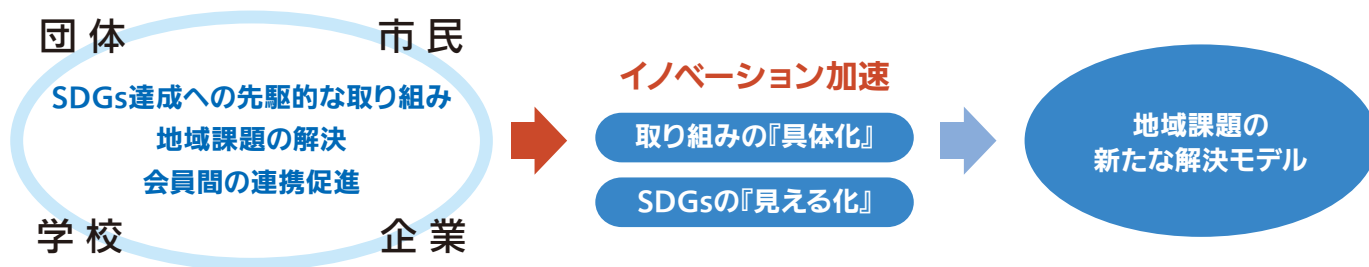
複数の会員が連携してSDGsの達成に向けて主体的に取り組む、地域課題の解決を目指す。



プロジェクトチーム活動の様子

●セミナー

SDGsへの理解を深め、市民や企業などへのSDGsの浸透を図る。



令和元年度に発足したプロジェクトチーム

北九州市の地域防災力向上のためのアクションプラン

提案者: 明治学園高等学校

企業・事業所対抗「ウォーキング大会」

提案者: 日本生命保険相互会社

教育コンテンツ Rethink YAWATA

提案者: 株式会社JT B

学びのスクランブル交差点

提案者: 永末 康介 (北九州市立大学 基盤教育センター)

令和2年度に発足したプロジェクトチーム

北九州のまちを美しく！プロジェクト

提案者: 日本たばこ産業株式会社

紙の循環から始める地域共創プロジェクト

提案者: 紙の循環から始める地域共創プロジェクト推進フォーラム

令和3年度に発足したプロジェクトチーム

北九州みらいキッズプロジェクト「出張子ども大工」

提案者: 大英産業株式会社 株式会社大英工務店 桑の実工房

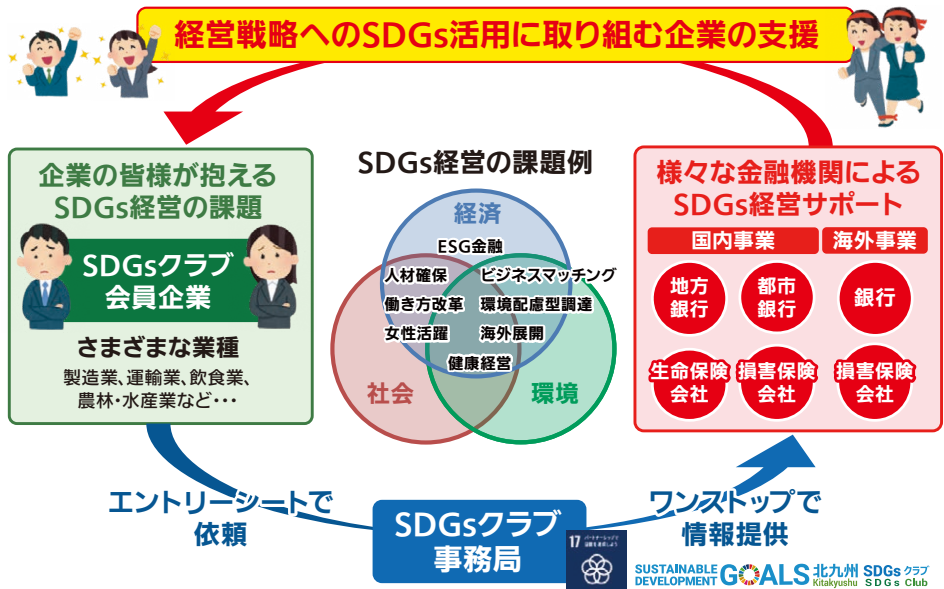
令和5年度に発足したプロジェクトチーム

産官学民連携子ども向けマイアースカードゲーム 北九州版環境教育プロジェクト

提案者: NPO法人SoELa 代表理事 岡部佳文

●SDGs経営サポート

地域の企業が事業活動を行う上で「SDGs」の視点を取り込んだ、いわゆる「SDGs経営」を推進できるように、SDGsクラブ会員の金融機関が必要な支援を行う。



会員 2,193(企業1,123、団体272、学校248、市民550)(令和5年10月末現在)

事務局 北九州市、北九州商工会議所

●北九州SDGsステーション

「北九州SDGsクラブ」を中核とした、本市独自のプラットフォーム。市民や企業等の主体的なSDGsの取組を促進するため、多様なステークホルダー間の連携、ニーズ・シーズ等の情報の集約と発信、市民・企業からの相談対応等を行う。

北九州SDGs登録制度

昨今のESG投資や脱炭素の潮流を踏まえ、SDGsの視点を企業経営に取り入れた市内事業者の取り組みを「見える化」することで、企業の競争力を高め、地域経済の活性化を図ります。

ESG投資・脱炭素の要請が急速に高まる中で、地元企業へSDGs経営を普及

地元企業の競争力UPによる「自律的好循環」の創出

取組みの見える化 + 関連づけ

経済 調達・雇用
社会 労働環境
環境 再エネ、3R

SDGs未来都市計画
17ゴールと169ターゲット

登録!

要件 1 「経済・社会・環境」を網羅した12項目の取り組み
要件 2 重点的な取り組みに、数値目標を設定
要件 3 地域貢献の取り組み (子ども食堂、公園・道路維持等)

選ばれる企業に!

- サプライチェーンから
- 銀行・投資家から
- 就職先として
- 消費者から

市に申請

●ホームページはこちら

URL: https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/324_00016.html



未来人材の育成



高校生SDGs選手権大会



SDGs Quest みらい甲子園

地域課題等に関心を持ち、解決策を考える探究学習での成果を発表するコンテスト大会「高校生SDGs選手権大会」を実施してきました。令和4年度から、全国規模の民間主催の大会「SDGs Quest みらい甲子園」に参加しています。

●動画の視聴はこちら

URL: https://www.youtube.com/channel/UCFU_r4YFKwRGKk5v_ROajMA



SDGs未来モデル発信事業



SDGsに積極的に取り組む市内企業(20社)を、市内の学生(大学・高等専門学校)及びライターが取材し、動画を作成しました。

動画を広く発信することで、市内企業におけるSDGs経営の普及・促進を図ります。

●動画の視聴は
こちらから

URL: <https://action-kitaq-sdgs.com/>



北九州SDGsマーク

多様な主体(SDGsクラブ会員、SDGs登録事業者など)が、北九州市と連携してSDGsに取り組んでいることをPRできるツールとして、独自の「北九州SDGsマーク」を制作しました。

●マークの詳細は
こちらから

URL: https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/324_00027.html



コンセプト

多様な主体の連携によってイノベーションを生み出し、社会課題の解決に向かうのがSDGs



- SDGsのゴールアイコンと同じ17色を使用
- 様々な形が重なり、交わり合う様子を、「地球」というシンボルで表現



北九州ESD協議会の取組

団体紹介

北九州ESD協議会は国内RCE(国連大学認定ESD推進拠点)として、持続可能な社会の実現を目指して、ESDを推進しています。

地域(商店街・市民センター等)、市民団体・NPO、教育機関(大学や市内小中学校等)、企業、行政等のさまざまなステークホルダーとともに活動を行っています。

主な活動

- ・出前講座や講演会等の実施
- ・市民センター等におけるESD活動推進事業
- ・イベントを通しての市民への啓発活動
- ・国内外のRCEとの交流
- ・ユースによるESD活動の支援
- ・広報紙等による情報発信

会員

94団体(市民団体・NPO等47、教育機関・研究機関等17、企業・経済団体15、行政・関連団体15)、個人会員47名(令和6年1月末現在)

実績

平成18年度 国連大学からRCEに認定(国内4番目/現在8地域)
平成29年度 「地方自治体施行70周年記念総務大臣表彰」受賞
平成29年度～ 令和元年度(3年連続)
「ユネスコ日本ESD賞」(ユネスコ主催)国内候補として推薦



ユース主催によるイベント「ESDツキイチの集い」